

授業科目名 (英文名)	再生医学特論 (Regenerative Medicine)		
担当教員 (所属)	二階堂 敏雄(医学部)		
授業科目区分	生命・臨床医学専攻	授業種別	講義科目
開講学期曜限	前期・火曜 5 限	対象所属	医学薬学教育部 (博士課程) 生命・臨床医学 専攻
時間割コード	355605	対象学年	1, 2, 3, 4年 単位数 2単位
連絡先 (研究室、電話番号、電子メール等)	再生医学講座 (医学部研究棟 4 F) 内線 7 2 1 2 教授 二階堂敏雄 tnikaido@med.u-toyama.ac.jp		
オフィスアワー (自由質問時間)	随時 (ただし事前に予約する)		
リアルタイム・アドバイス：更新日	12/03/23		
特になし			
授業のねらいとカリキュラム上の位置付け (一般学習目標)	教育目標		
ヒトの器官ができる過程と組織再生の仕組みを知るとは、基礎医学だけでなく臨床医学を学ぶ上においても極めて重要である。この講義及び実習では再生医学の基礎を理解する。			
達成目標			
再生医学は器官や組織の欠損、障害、老化を克服するために身体の持つ自己再生能力を研究対象とした学問で、その再生能力を生かした医療が再生医療である。近年生活習慣病や難治疾患である神経疾患、糖尿病、心筋梗塞、関節軟骨などの疾患に対して再生医療が期待されている。この講義及び実習では、再生医学における分子生物学、組織工学などの知識や技術を習得する。この講義及び実習の達成目標は、以下の通りです。			
1. 配偶子の形成から出生に至る一連の経過と胚形成の全体像を説明できる。			
2. 種々の幹細胞から各細胞への分化と成熟の過程を説明できる			
3. 種々の組織の再生に関して組織学的に説明できる。			
4. 組織の再生を分子生物学的に説明できる。			
5. 体性幹細胞と腫瘍の発生に関して説明できる。			
6. 胎盤や羊膜等を組織学的及び発生学的に説明できる。			
授業計画 (授業の形式、スケジュール等)			
1.この講義及び実習は、学部学生の組織学、組織学実習で学習した内容の延長として行われる。			
2.講義の一部は、関連学会参加、教室内のカンファレンスの参加により補われる。			
3.実習の一部は、研究室内での研究で補われる。			
キーワード	個体発生と系統発生、受精と着床、胎盤、細胞の分化、組織分化と器官形成、遺伝子、増殖・分化因子、組織工学、再生医療		
履修上の注意	特になし		
教科書・参考書等	教科書：なし 参考書：標準組織学総論・各論 (医学書院) ラングマン人体発生学 (トーマス・サドラー著、メディカル・サイエンス・インターナショナル) ムーア人体発生学 (Moore著、医歯薬出版)		
成績評価の方法	参加状況等を勘案しながら、レポート等の成績を総合的に判断して、行う。		
関連科目	発生学 ・ 組織学		
リンク先URL	http://www.med.u-toyama.ac.jp/saiseiigaku/index.html		
オープン・クラス 備考	受入不可：	単位互換	受入不可：